PAT-NO: JP02001318566A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001318566 A

TITLE: ELECTROPHOTOGRAPHIC IMAGE FORMING

DEVICE

PUBN-DATE: November 16, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY

KOIKE, YOSHIYUKI N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY

CANON INC N/A

APPL-NO: JP2000138581

APPL-DATE: May 11, 2000

INT-CL (IPC): G03G021/00, G03G015/00, G03G021/18,

G03G015/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent printing failure by appropriately detecting the life of a process cartridge and informing a user in a printer of a toner reuse-type.

SOLUTION: In the toner reuse-type printer, the life of the process cartridge

is detected by utilizing an initial toner quantity Wi, a pixel count value PC,

a toner quantity Wdot that is consumed for 1 dot, the area of passed paper S,

the quantity of impurity a which is mixed into a toner container per unit area

of passed paper, a toner residue quantity W derived from

transfer efficiency Tk and the two parameters of printed image quality. The printing failure is prevented by informing the user of the life.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出顧公開番号 特開2001-318566 (P2001-318566A)

(43)公開日 平成13年11月16日(2001.11.16)

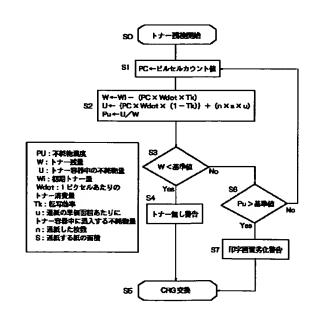
				(10) 24 00 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	110 [] (2001. 11. 10)
(51) Int.Cl.		識別記号	FΙ			テーマコード(参考)
G03G	21/00	5 1 2	G03G 2	1/00	512	2H027
		376			376	2H071
	15/00	303	1	5/00	303	2H077
	21/18				556	
	15/08	507	15/08		507B	
			審査請求	未請求	耐求項の数5	OL (全14頁)
(21)出願番り		特顧2000-138581(P2000-138581)	(71)出顧人	0000010	07	
				キヤノン	/株式会社	
(22)出廣日		平成12年5月11日(2000.5.11)	東京都大田区下丸子3丁目30番2号			
			(72)発明者 小池 良行			
					大田区下丸子3丁 【会社内	130番2号 キヤ
			(74)代理人			
					新井 一郎	
				71-2-	# P	
						最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子写真画像形成装置

(57)【要約】

【課題】 トナーリュース系のプリンタにおいて、プロセスカートリッジの寿命を適切に検知して使用者に伝えることで印字不良を未然に防ぐ。

【解決手段】 トナーリュース系のプリンタにおいて、初期トナー量Wi、ピクセルカウント値PC、1ドットあたりに消費するトナー量Wdot、通紙面積S、通紙の単位面積あたりにトナー容器中に混入する不純物量u、転写効率Tkより求めたトナー残量Wと印字画質の2つのパラメータを用いてプロセスカートリッジ寿命を検知し、それを使用者に伝えることで印字不良を未然に防ぐ。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 プロセスカートリッジを着脱可能で記録 媒体に画像を形成する電子写真画像形成装置において、 a. 電子写真感光体ドラムと、

前記電子写真感光体ドラムに作用するプロセス手段であって、トナーを再使用するプロセス手段と、

を有するプロセスカートリッジを取り外し可能に装着する装着手段と、

ピクセルカウント値、ピクセルカウントの1ドットあたりのトナー消費量、初期トナー量、通紙する紙の面積、通紙の単位面積あたりにトナー容器中に混入する不純物量、転写効率から不純物濃度を算出する演算装置を有し、さらに不純物濃度から印字画質を推定し、トナー残量と印字画質とでプロセスカートリッジの寿命を検知することの可能なプロセスカートリッジの寿命検知装置と

を有することを特徴とする電子写真画像形成装置。

【請求項2】 画像形成装置本体にプロセスカートリッジ中の不純物濃度を記憶しておくためのメモリを有し、プロセスカートリッジを画像形成装置本体から抜き取る 20 際にその時点の不純物濃度を本体メモリに記憶させ、次に使用する前記プロセスカートリッジを挿入した際に前回のプロセスカートリッジを抜き取った時点の不純物濃度値をプロセスカートリッジの寿命検知判定値に用いることを特徴とする請求項1に記載の電子写真画像形成装置。

【請求項3】 プロセスカートリッジにプロセスカートリッジ中の残トナー量および不純物濃度を記憶しておくためのメモリを有し、プロセスカートリッジから抜き取る際にその時点の残トナー量および不純物濃度をプロセ 30 スカートリッジのメモリに記憶させ、再び画像形成装置本体にプロセスカートリッジを挿入した際に画像形成装置本体側でその値を読み取り、その残トナー量および不純物濃度を用いて再度プロセスカートリッジの寿命検知判定を開始することを特徴とする請求項1に記載の電子写真画像形成装置。

【請求項4】 印字画質を複数用意し、画像形成装置本体に印字画質を変更するための装置を有し、使用者が必要に応じて印字画質を設定可能にし、その変更された印字画質に対してプロセスカートリッジの寿命検知の判定 40 値を変更し、それによって使用者が求める印字画質が達成可能かどうかの判定を行うことを特徴とする請求項1 に記載の電子写真画像形成装置。

【請求項5】 画像形成装置本体側でプロセスカートリッジ中の不純物濃度を検知し、その値によって電子写真 感光体ドラムに潜像を書き込むためのレーザの出力や、 転写バイアスを変更できる装置を有し、プロセスカート リッジ中の不純物濃度によってそれらのプロセス条件を 変更することで、通常では印字不良となる不純物濃度で あっても印字不良とならないようにすることを可能と し、印字不良を減少させることを特徴とする請求項1に 記載の電子写真画像形成装置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は電子写真プロセスを 用いたトナーリュース系のプロセスカートリッジを着脱 可能で記録媒体に画像を形成する電子写真画像形成装置 に関するものである。ここで、電子写真画像形成装置と は、電子写真画像形成方式を用いて記録媒体に画像を形 成するものである。そして、電子写真画像形成装置の例 としては、例えば電子写真複写機、電子写真プリンタ (例えばレーザービームプリンタ、LEDプリンタ等) ファクシミリ装置及びワードプロセッサ等が含まれる。 【0002】また、プロセスカートリッジとは、帯電手 段、現像手段またはクリーニング手段と電子写真感光体 ドラムとを一体的にカートリッジ化し、このカートリッ ジを画像形成装置本体に対して着脱可能とするものであ る。及び帯電手段、現像手段、クリーニング手段の少な くとも1つと電子写真感光体ドラムとを一体的にカート リッジ化して画像形成装置本体に着脱可能とするもので ある。更に、少なくとも現像手段と電子写真感光体ドラ ムとを一体的にカートリッジ化して装置本体に着脱可能 とするものをいう。

[0003]

【従来の技術】従来、電子写真画像形成プロセスを用いた画像形成装置おいては、電子写真感光体及び前記電子写真感光体に作用するプロセス手段を一体的にカートリッジ化して、このカートリッジを画像形成装置本体に着脱可能とするプロセスカートリッジ方式が採用されている。このプロセスカートリッジ方式によれば、装置のメンテナンスをサービスマンによらずにユーザー自身で行うことができるので、格段に操作性を向上させることができた。そこでこのプロセスカートリッジ方式は、画像形成装置において広く用いられている。

【0004】プリンタで用いられるトナーの残量検知の 方法は、大きく分けて2つ挙げられる。第一の方法は、 トナーカートリッジにセンサを取り付け、トナーの量を 直接検知することにより、残量検知を行うものである。 第二の方法は、印字する際に感光体ドラムに書き込まれ たピクセル数を数え、1ピクセルあたりに消費されるトナー量を考慮することで、使用されたトナーの量を推定 するというものである。

【0005】第一の方法であるセンサ方式についての代表的な方法は、トナー容器内部にアンテナを設置する方式である。図8において101はカートリッジ本体、102は感光体ドラム、103はトナー容器、104はトナー残量検知用アンテナ、105はクリーナである。磁性を持つトナーによって生じる磁場をアンテナが検知している間はアンテナに電流が流れ、トナーが無くなると 磁場が形成されなくなるをか電流が流れなくなる。これ

によりトナーの残量を検知することができる。このセン サ方式はトナーを直接測定しているため、高い信頼性を 得ることができる。しかしトナーの量がある決められた 状態にならないと検知されない。

【0006】これらに対して第二の方法は、実際に印字されたピクセル数を数えていくものである。これは印字に使用される1ピクセルあたりのトナー量を測定しておき、何ピクセル印字したかを数えることで全体のトナー消費量を推定し、トナー残量を管理するものである。この方式ではトナー残量を連続的に管理するため、設定されたある点というわけではなく連続的にどのくらいの量が残っているのかを推定できる。しかし新品のカートリッジを用いて印字した時を基準とすることになるため、異なるプロセスカートリッジを交換したときにはカウントのリセットが必要である。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】プロセスカートリッジにはクリーナのある系とない系の2種類の方式がある。
クリーナのある系(クリーナ系)では転写に用いられなかったトナーは全てクリーナで除去され、次の転写には 20また新たなトナーが用いられる。これまでのトナー残量検知は、トナー容器中の残トナー量を直接もしくは間接に検知するものであり、これはクリーナ系においてはトナー無しの状態がプロセスカートリッジ交換時期と一致するため、使用者にとって非常に有用な情報となる。
【0008】一方クリーナのない系(クリーナレス系

【0008】一方クリーナのない系(クリーナレス系、図9)は、クリーナ系で問題となる除去トナー(使用できないトナー)を出さないという利点があるため、環境面で期待されている。しかし現状では転写効率が100%ではなく、転写に用いられなかったトナー(磁気特性 30が劣っている不良トナー)が除去されずにトナー容器中に戻り、未使用トナーと混合される。また印字に用いた紙の紙粉や紙表面に付着していた薬品も一緒にトナー容器中に混入するため、トナー容器中の不純物濃度が高くなってしまう。この不純物濃度によって印字画質に問題が発生するため、トナー残量が十分ある場合においてもプロセスカートリッジを交換した方がよい場合が出てくる。

【0009】本発明の目的はクリーナレス系のプロセスカートリッジを着脱可能で記録媒体に画像を形成する電 40子写真画像形成装置において、トナー残量とトナー容器中の不純物濃度を用いてプロセスカートリッジの寿命検知を行うことで、トナー容器内の不純物濃度増加により引き起こされる印字不良をあらかじめ使用者に伝え、それにより印字不良を低減できる電子写真画像形成装置を提供することである。

[0010]

【課題を解決するための手段】本出願に係る第1の発明 はプロセスカートリッジを着脱可能で記録媒体に画像を 形成する電子写真画像形成装置において、 a.電子写真感光体ドラムと、前記電子写真感光体ドラムに作用するプロセス手段であって、トナーを再使用するプロセス手段と、を有するプロセスカートリッジを取り外し可能に装着する装着手段と、ピクセルカウント値、ピクセルカウントの1ドットあたりのトナー消費量、初期トナー量、通紙する紙の面積、通紙の単位面積あたりにトナー容器中に混入する不純物量、転写効率から不純物濃度を算出する演算装置を有し、さらに不純物濃度から印字画質を推定し、トナー残量と印字画質とでプロセスカートリッジの寿命を検知することの可能なプロセスカートリッジの寿命検知装置と、を有することを特徴とする電子写真画像形成装置である。

【0011】クリーナレス系の電子写真画像形成装置例 えばプリンタは印字するほど不純物濃度が高くなり、そ れに伴って中抜け等の印字不良が多くなるため、使用者 が求めている印字画質を達成できなくなるという問題が ある。このためトナー容器中の不純物濃度を検知しそこ から印字画質を推定することで印字不良が起こりやすい 状態かどうかを使用者に知らせる。トナー残量とトナー 容器中の不純物濃度は、初期トナー量、ピクセルカウン ト値および1ピクセルあたりの消費トナー量、転写効 率、通紙した紙の面積、通紙した紙の単位面積あたりに トナー容器中に混入する不純物量から求めることができ る。そこで求めた不純物濃度から印字画質を推定する。 この残トナー量と印字画質の2つのパラメータに対して 使用者に警告を行うことで、印字不良が起こりやすい状 態のときにプロセスカートリッジの交換を促し、印字不 良を未然に防ぐことができる。

【0012】本出願に係る第2の発明は画像形成装置本体にプロセスカートリッジ中の不純物濃度を記憶しておくためのメモリを有し、プロセスカートリッジを画像形成装置本体から抜き取る際にその時点の不純物濃度を本体メモリに記憶させ、次に使用する前記プロセスカートリッジを挿入した際に前回のプロセスカートリッジを抜き取った時点の不純物濃度値をプロセスカートリッジの寿命検知判定値に用いることを特徴とする第1の発明に記載の電子写真画像形成装置である。

【0013】使用者によってプリンタに求める印字画質はさまざまである。人によっては最高の印字画質が必要という場合や、多少の印字不良があっても印字できれば良いという場合が出てくる。またその系の置かれている環境(温度、湿度)や使用する紙種によって印字画質が変化する場合がある。このような場合トナー残量と印字画質に対して警告を行う判定値(トナー残量と不純物濃度)が固定値(メーカ推奨値)では、使用者側のあらゆるニーズに対応することができない。そこで本体メモリにプロセスカートリッジを交換した時点の残トナー量と不純物濃度を記憶し、その情報を元に次のプロセスカートリッジが前回交換時の状態になったときに使用者に警50 告を行う。これにより使用者が求める印字画質の時にプ

ロセスカートリッジの交換を促すことで、使用者の求め る印字画質を常に達成することができる。

【0014】本出願に係る第3の発明はプロセスカート リッジにプロセスカートリッジ中の残トナー量および不 純物濃度を記憶しておくためのメモリを有し、プロセス カートリッジから抜き取る際にその時点の残トナー量お よび不純物濃度をプロセスカートリッジのメモリに記憶 させ、再び画像形成装置本体にプロセスカートリッジを 挿入した際に画像形成装置本体側でその値を読み取り、 その残トナー量および不純物濃度を用いて再度プロセス 10 カートリッジの寿命検知判定を開始することを特徴とす る第1の発明に記載の電子写真画像形成装置である。 【0015】トナー残量や不純物濃度の検知を行う場 合、別の画像形成装置本体で使われたプロセスカートリ ッジを使用すると、それまでの履歴 (残トナー量、混入 不純物量) が判らないために正確な検知を行うことがで きない。このためプロセスカートリッジにそれまでの履 歴を書き込み、別の画像形成装置本体で使用する場合に

【0016】本出願に係る第4の発明は印字画質を複数 用意し、画像形成装置本体に印字画質を変更するための 装置を有し、使用者が必要に応じて印字画質を設定可能 にし、その変更された印字画質に対してプロセスカート リッジの寿命検知の判定値を変更し、それによって使用 者が求める印字画質が達成可能かどうかの判定を行うこ とを特徴とする第1の発明に記載の電子写真画像形成装 置である。

はその履歴を画像形成装置本体側で読み込んで使用す

ジを別の画像形成装置本体で使用するような場合におい

ても、正確な検知を行うことが可能となる。

【0017】使用者の求める印字画質はさまざまであ り、それらの要求を一つの判定値で対応することは不可 能である。また通常は普通画質で良い場合でも、場合に よっては最高画質を要求されるというように、複数の判 定値を必要とする場合がある。こういった場合に印字画 質に複数の段階を設けて、使用者が必要な印字画質に設 定することで判定値を変化させ、使用者が求める印字画 質が達成できるかを判定することができる。また、達成 できない場合にはプロセスカートリッジの交換を促すこ る。

【0018】本出願に係る第5の発明は画像形成装置本 体側でプロセスカートリッジ中の不純物濃度を検知し、 その値によって電子写真感光体ドラムに潜像を書き込む ためのレーザの出力や、転写バイアスを変更できる装置 を有し、プロセスカートリッジ中の不純物濃度によって それらのプロセス条件を変更することで、通常では印字 不良となる不純物濃度であっても印字不良とならないよ うにすることを可能とし、印字不良を減少させることを 特徴とする第1の発明に記載の電子写真画像形成装置で 50 属する紙サイズ検知とレジストローラ前の先端検知セン

ある。

【0019】クリーナレス系ではプリントする度に不純 物濃度が上がり、徐々に印字画質が落ちてくる。これは 不純物濃度が上がると、その不純物濃度の影響でトナー 容器内の磁気特性が落ちるためである。このため電子写 真感光体ドラム上にのるトナー量は少なくなり、電子写 真感光体ドラム上にのっているトナーが紙に転写する際 の転写効率も落ちる。しかしいずれの場合も電子写真感 光体ドラム上に潜像を書き込むレーザーの出力や転写の 際に印加するバイアス電圧を変化させることで磁気特性 の劣化を補うことができ、印字不良の割合を減少させる ことができる。

[0020]

【発明の実施の形態】 [実施の形態1] 実施の形態1は クリーナレス系のプリンタにおいて、プロセスカートリ ッジ中のトナー残量と不純物濃度を検知しそれを使用者 に知らせることで、不純物濃度が原因となる印字不良を 低減することができるというものである。

【0021】この例で用いるプロセスカートリッジの基 る。これにより途中まで使用されたプロセスカートリッ 20 本構成を図9に示す。101はカートリッジ本体(プロ セスカートリッジ全体についても同符号を用いる)、1 02は感光体ドラム、103はトナー容器である。プロ セスカートリッジを着脱可能な画像形成装置本体側では 印字に用いられるピクセル数をカウントする装置を設置 している。そのピクセルカウント値と転写効率、初期ト ナー量、通紙した紙の面積、通紙の単位面積あたりにト ナー容器中に混入する不純物量からトナー容器103中 の不純物濃度を計算することができる(計算式は後 述)。この構成による一連の流れを図1に示す。

30 【0022】クリーナレス系のプリンタでは、転写に使 われなかったトナーがトナー容器に戻ってくる。このト ナーは感光体ドラム102-紙間に高電圧の転写バイア スをかけても転写されなかったトナーであり、磁気特性 が劣っている不良トナー(不純物)である。また通紙し ている際には転写バイアスによって紙からの紙粉や紙表 面に付着している薬品が感光体ドラム102上に付き、 それもトナー容器103に混入し不純物となる。これら の不純物によりトナー容器103内の磁気特性が劣化す るため、感光体ドラム上にのるトナーの量が減少し、ま とで、使用者が求める印字画質を達成させることができ 40 た転写効率も低下するために印字不良が起こりやすくな る。

> 【0023】印字により消費されるトナー量およびトナ ー容器103に戻ってくるトナー量(リューストナー 量) は、 転写効率とピクセルカウントから求めることが できる(下式(1)第2項および(2)第1項)。 また 紙が原因となる不純物量は通紙した面積と紙の単位面積 あたりに紙から感光体ドラム102に付着しトナー容器 103中に混入する不純物量から求める(下式(2)第 2項)。通紙した紙の面積は、例えば給紙カセットに付

サが倒れている時間から求めることができる。通紙の単 位面積あたりに紙から感光体ドラム102に付着しトナ -容器103中に混入する不純物量は、標準の値をあら かじめ調べておきそれを用いる。これらの情報を用いて 不純物濃度を算出する。計算式を下記に示す。ここでP

u:不純物濃度、Wi:初期トナー量、Wdot:1ド*

$$W=Wi-(PC\times Wdot\times Tk)$$
 (1)

[0024]

$$U = \{PC \times Wdot \times (1-Tk)\} + (n \times S \times u)$$
 (2)

$$Pu = U/W \tag{3}$$

値 (メーカ推奨値) に達したら使用者に対してプロセス カートリッジの交換を促すための警告を行う。

【0025】トナー残量と印字画質の推移の概略を図2 に示す。図2(a)はトナー残量Wの変化を表したもの で、縦軸はトナー残量W、横軸はピクセルカウント値P Cである。トナー残量Wはピクセルカウント値PCが増 加(プリント枚数が増加)するに従って線形に減少して いく。トナー残量がある一定値よりも少なくなった場 合、トナー無し予告がされる。図2(b)は印字画質の 変化を表したもので、縦軸は印字画質、横軸は不純物濃 20 度Puである。トナー容器中の不純物濃度が増加するに 従って、印字画質が劣化していく。しかし、印字画質の 劣化の仕方は不純物濃度Puに対して線形ではなく、不 純物濃度Puがある程度多くなったところから急激に劣 化する。その印字画質がある程度劣化すると、印字画質 劣化の警告がされる。このトナー残量Wと印字画質のう ち、先に基準値に到達した方に対して警告を行い、それ によってプロセスカートリッジ交換を促す。

【0026】図1でプロセスカートリッジ101が画像 形成装置本体に装着されて使用され交換に到る流れを説 30 明する。トナー残量検知が開始される(SO)と、画像 形成装置本体の演算装置は次の演算を行う。ステップS 1の画像形成時のピクセルカウント値PCを用いて式 (1)(2)(3)によりトナー残量W、トナー容器1 03中の不純物量U、不純物濃度Puを求め (ステップ S2)、ステップ3でトナー残量Wを予め定められた基 準値と比較し、トナー残量Wが基準値よりも少ないとき はステップ4に進み、画像形成装置本体にトナー無しを 警告する。そこで使用者はプロセスカートリッジ101 (図1ではCRGと記す。以下の流れ図についても同様 40 である。)を交換する(ステップ5)。

【0027】一方ステップ2でトナー残量Wが基準値よ りも多い場合はステップS6へ進み、不純物濃度Puが 予め定められた基準値よりも小さいときはステップ1へ 戻り、画像形成は続行される。ステップ6で不純物濃度 Puが基準値よりも大きいときはステップ7へ進み印字 画質劣化警告が画像形成装置本体に表示される。そこで プロセスカートリッジは交換される(ステップ5)。

【0028】 [実施の形態2] 実施の形態2は実施の形 態1に加えて、トナー残量と不純物濃度Puの検知を行※50

(2) (3) この値から印字画質を推定し、その印字画質がある基準 10%う際に、使用者がプロセスカートリッジ101の交換を 行った時の不純物濃度Puおよびプロセスカートリッジ 101の個体識別番号を画像形成装置本体のメモリへ記 憶する。次に挿入されたプロセスカートリッジ101が 前回のものと同一な場合には判定値は変更せず、プロセ スカートリッジ101が新品の場合には交換時の情報を

元に次のプロセスカートリッジ101の印字不良発生の

警告を行う際の判定値をメーカ推奨値(初期値)に変更

し、その判定値を元に警告を行うことで使用者の求める

*ットあたりのトナー消費量、PC:ピクセルカウント

数、Tk:転写効率、U:トナー容器中の不純物量、

u:紙の単位面積あたりの不純物量、n:通紙した枚

数、S: 通紙する紙の面積、W: トナー残量とする。

印字画質を保つというものである。 【0029】この実施の形態で用いるプロセスカートリ ッジ101の基本構成は実施の形態1と同一である(図 9)。さらに、画像形成装置本体側にプロセスカートリ ッジ101の交換時の不純物濃度Puとプロセスカート リッジ101の個体識別番号を記憶するためのメモリを 搭載している。その情報により、プロセスカートリッジ 交換を促す警告を出すための判定値に変更を加えること ができる。この例の流れを図3に示す。図3においてス テップS1~S5, S1~S3~S7は実施の形態1と 同様であり、トナー残量W、不純物濃度Puの基準値は 次の理由で補正される。

【0030】印字画質は使用者によって判断基準が異な っている。例えばある判定値をメーカ推奨値として規定 した場合に、その判定値よりも前でプロセスカートリッ ジ101の交換を行う人や、逆にその判定値によって印 字不良の警告をされてもプロセスカートリッジ101の 交換を行わない人がいる。これはプリンタに対して使用 者の求めるものが異なるためで、高い印字画質が必要な 場合は判定値より前で交換し、印字画質よりも枚数を多 く印字したい場合には警告されても交換しないというこ とになる。

【0031】またそのプリンタの置かれている環境(温 度、湿度)や使用している紙種によって印字画質は変化 することがある。温度や湿度によって感光体ドラム10 2にのるトナー量や転写効率が異なり、リューストナー (不良トナー) 量が変化するため不純物濃度Puが変化 する。また使用する紙によって紙粉の出やすい紙や出に くい紙があるため、これによっても不純物濃度Puが変 化する。このため判定値を固定にした場合では、実際の 印字画質と比べてずれが生じる。

【0032】これらの補正をするために判定値を固定で

はなく可変にする。プロセスカートリッジ交換を行った 際にそのときの不純物濃度Puとプロセスカートリッジ 101の個体識別番号を画像形成装置本体のメモリに書 き込んでおき、次のプロセスカートリッジ101を使用 する際にその情報を用いて判定値を変更する。この方法 で判定値を変更した場合、その使用者の求める印字画質 を基準として判定値を決定でき、同時にそのプリンタの 置かれている環境や使用している紙種による影響を考慮 した判定値にすることができる。それにより使用者の求 める印字画質を達成し、また不純物濃度Puの変化によ 10 る判定値のずれを補正することができる。

【0033】このとき問題となるのが、例えば紙づまり の処理等で一時的にプロセスカートリッジ101を画像 形成装置本体から抜き取る場合、そのときのプロセスカ ートリッジ情報が画像形成装置本体のメモリに書き込ま れるということである。これを防ぐために図3のステッ プS8でプロセスカートリッジ交換時に、次に挿入され たプロセスカートリッジ101が以前のプロセスカート リッジ101か新品のプロセスカートリッジ101であ るかの判定を行う。この判定はプロセスカートリッジ1 20 01が画像形成装置本体から抜き取られたときに画像形 成装置本体のメモリにプロセスカートリッジ101の個 体識別番号を記憶しておき、プロセスカートリッジ10 1が画像形成装置本体に挿入されたときこの個体識別番 号の参照を行うことで個体の特定が可能となる。ステッ プS8で交換されたプロセスカートリッジ101が以前 のプロセスカートリッジ101と同じであればステップ S1に戻る。ステップ8で交換されたプロセスカートリ ッジ101が以前のものと同じでないときはステップ9 へ進み、画像形成装置本体のメモリ(本体メモリ)に書 30 き込まれ、プロセスカートリッジ交換後の不純物濃度P uの基準値を基準値2とし、トナー残量の基準値を基準 値1とする。

【0034】[実施の形態3]実施の形態3は実施の形 態2に加えて、プロセスカートリッジ101に搭載され たメモリを用いてそこにそのプロセスカートリッジ10 1の使用履歴(トナー残量W、不純物濃度Pu)を記憶 し、別の画像形成装置本体で使用する際にそれを読み込 んで使用する。これにより途中まで使用されたプロセス カートリッジ101を別の画像形成装置本体で使用する 40 際にも、そのプロセスカートリッジ101のトナー残量 Wや混入不純物濃度Puを正確に引き継ぐことができ、 それによって使用途中のプロセスカートリッジ101を 使用する際にも正確な検知が可能となるものである。

【0035】この例で用いる基本構成は実施の形態1と 同一である (図9参照) が、プロセスカートリッジ10 1に使用履歴を記憶するためのメモリが搭載されてい る。プロセスカートリッジ101を画像形成装置本体か ら抜き取るときにその時点のトナー残量Wと不純物濃度 Puをプロセスカートリッジ101に搭載されたメモリ 50 る。そのつまみを動かすことで印字画質を変更し、その

に記憶する。プロセスカートリッジ101を画像形成装 置本体に挿入したときに、画像形成装置本体側にそのプ ロセスカートリッジ101に搭載されたメモリから情報 を読み出すための装置が搭載されており、交換されたプ ロセスカートリッジ101から使用履歴の情報を読み出 してプロセスカートリッジ101の寿命検知を再開する ことができる。この例の流れを図4に示す。

10

【0036】プロセスカートリッジ101を使用途中で 別の画像形成装置本体に挿入して使用する場合や、紙づ まりの処理等で一時的にプロセスカートリッジ101を 画像形成装置本体から抜き取り、再挿入して使用すると いった場合がある。これらの場合プロセスカートリッジ 101を画像形成装置本体から抜き取ることで、それま でのトナー残量や混入不純物濃度といった情報がリセッ トされてしまうため、正確なトナー残量検知ができなく なる。これらの問題を解決する手段として、プロセスカ ートリッジ101にメモリを搭載してプロセスカートリ ッジ101の使用履歴の情報(トナー残量W、混入不純 物濃度Pu)を記憶する。これにより、プロセスカート リッジ101を一度画像形成装置本体から抜き取って再 度挿入して使用する際にはその使用履歴情報を画像形成 装置本体側で読み取り、その情報を用いてトナー残量W や不純物濃度Puの検知を行うことができ、使用途中で 別の画像形成装置本体に挿入したり紙づまり等で一時的 に画像形成装置本体から取り出す場合に対応することが 可能になる。

【0037】図4の流れ図において図1と異なる点は、 ステップS2の次にステップS2を設け、ステップS2 で算出されたトナー残量Wと不純物濃度Puをプロセス カートリッジ101に搭載されたメモリに記憶する。そ して、ステップS3~S5、S3~S6~S7は実施の 形態2と同様である。 ステップ5でプロセスカートリッ ジ101を画像形成装置本体から取り外すと、そのとき のトナー残量W、不純物濃度Puはプロセスカートリッ ジ101に搭載のメモリに記憶される。次にプロセスカ ートリッジ101を画像形成装置本体へ装着すると(ス テップ8) 画像形成装置本体はそのプロセスカートリッ ジに搭載したメモリからトナー残量Wと、不純物濃度P uを読み取り、トナー残量W、不純物濃度Puの初期状 態を夫々基準値2に変更する。

【0038】 [実施の形態4] 実施の形態4は実施の形 態3に加えて印字画質に段階を設けて、使用者が必要な 印字画質に設定を変更可能とする。その設定した印字画 質に対して判定を行い、その印字画質を達成可能かどう かを使用者に知らせるというものである。

【0039】この実施の形態で用いるプロセスカートリ ッジ101の基本構成は実施の形態1と同一である(図 9参照)が、画像形成装置本体に印字画質の設定値を変 更するための装置 (例えば調整つまみ) が搭載されてい

11 画質が達成可能かどうかの判定を行う。この例の流れを 図5に、印字画質に段階を設けた表示例を図6に示す。

【0040】使用者の求めている印字画質はさまざまで ある。例えば常に最高画質で印字しなければならない場 合も存在する。こういった場合、印字画質の設定値を数 段階に分けて、その設定値を使用者が自由に設定可能と する。常に最高画質が必要な場合には設定値を最高画質 に設定し、不純物濃度Puの増加等で最高画質が達成で きなくなった場合には、その時点で印字画質劣化の警告 を行う。このとき、印字画質の設定値を下げれば印字画 10 質劣化の警告は消え、最高画質での印字はできないが印 字画質の劣る段階での印字は可能となる。

【0041】また、通常は最高画質を必要としなくて も、場合によっては最高画質を必要とする文書を印字し なくてはならなくなるときもある。このような場合、通 常は普通画質に設定しておき、最高画質が必要なときに は印字画質を最高画質に設定する。設定した時点で最高 画質の印字が可能であれば印字画質劣化の警告はされ ず、不純物濃度が高く最高画質が達成できない場合には れた場合、どうしても最高画質の印字が必要であれば、 プロセスカートリッジ101を交換することで最高画質 の印字が可能となる。また最高画質設定の時に警告され ても、印字画質を下げることで印字を続けることが可能 となる。

【0042】図5の流れ図において図1と異なる点は系 のスタート後は先ずステップS1-1で基準値2を設定 する。 そしてステップ4でトナー無し警告またはステッ プ7で印字画質劣化警告が出された場合はステップS5 -1へ進み印字画質が普通画質(normal)以外に 30 設定値の変更がなされているかどうかを判断し、設定値 が普通画質の場合はステップS5へ進みプロセスカート リッジを交換し、普通画質以外の場合は画質を下げて使 用可能なのでステップS1−1へ戻り、印字画質を下げ る設定を行う。なお、図6で印字画質はnormalが 普通画質、fineが精細画質、super fine が極精細画質、ultra superfineが超精 細画質を表している。

【0043】[実施の形態5]実施の形態5は、トナー 残量Wと不純物濃度Puの検知を行う際に画像形成装置 40 本体側のプロセス条件に変更を加えることで、不純物濃 度Puの増加により本来ならば印字不良の発生する状態 であっても印字不良とならずに、より多くの印字が可能 となるというものである。

【0044】この例で用いるプロセスカートリッジ10 1の基本構成は実施の形態1と同一である(図9参照) が、画像形成装置本体にプロセスカートリッジ101の 状態(不純物濃度Pu)によってプロセス条件(感光体 ドラム102に潜像を書き込むレーザの出力、転写バイ アス)が変更可能な装置を搭載している。この例の流れ 50 寿命検知を再開することを可能にした。

を図7に示す。

【0045】クリーナレス系ではプリントを行う度に不 純物濃度が高くなり、そのため印字画質が徐々に悪くな っていく。これを考慮し、不純物濃度Puが高くなって いくに従ってプロセス条件に変更を加える。不純物濃度 Puが高くなるとトナー内の磁気特性が落ちるため、感 光体ドラム102にのるトナーの量が減少する。このた め感光体ドラム102に潜像を書き込むためのレーザの 出力を上昇させる。こうすることで磁気特性が落ちる状 態でも感光体ドラム102にトナーを十分付着させるこ とができ、印字不良の発生する確率を下げることができ る。 またトナーの磁気特性が落ちると、 感光体ドラム1 02上のトナーを紙に転写させる際に転写効率が悪くな る。この場合、感光体ドラム102-紙間の転写バイア ス電圧を上昇させる。こうすることで破気特性の劣るト ナーでも転写効率を上昇させることができ、印字不良の 発生する確率を下げることが可能となる。

【0046】このようにプロセス条件を変更すること で、本来ならば不純物濃度が多く印字不良の発生しやす 印字画質劣化の警告がされる。印字画質劣化の警告がさ 20 い状態であっても印字不良の発生を下げることができ、 より多くの印字が可能となる。

> 【0047】図7の流れ図において図1と異なる点は、 ステップS4において、トナー無し警告又は印字画質劣 化警告があってもプロセス条件変更が可能ならば、プロ セス条件を変更してステップ4で更に不純物濃度Puの 基準値を基準値2に変更し、ステップ1に戻り画像形成 を続行する。ステップS4でプロセス条件の変更の可能 性がないときは、ステップ5へ進みプロセスカートリッ ジを101交換する。

[0048]

【発明の効果】以上説明したように、本出願に係る第一 の発明によれば、クリーナレス系プリンタにおいてプロ セスカートリッジのトナー残量に加えトナー容器中の不 純物濃度を検知することで、使用者に対し印字画質に関 する警告を行うことができ、それによって印字不良を未 然に防ぐことを可能にした。

【0049】本出願に係る第二の発明によれば、第一の 発明に対して検知した不純物濃度をプロセスカートリッ ジ交換時に画像形成装置本体のメモリに記憶させ、新た なプロセスカートリッジを挿入したときにその値をプロ セスカートリッジの寿命検知の判定値にすることで、使 用者が求める印字画質によるプロセスカートリッジ寿命 検知の判定を可能にした。

【0050】本出願に係る第三の発明によれば、第二の 発明に対して検知したトナー残量および不純物濃度をプ ロセスカートリッジのメモリに記憶しておき、プロセス カートリッジを一度画像形成装置本体から抜き取って再 度挿入した際にそのデータを本体側で読み取り、プロセ スカートリッジのトナー残量および不純物濃度に基づく

【0051】本出願に係る第四の発明によれば、印字画質に複数の段階を設けて使用者が印字画質を自由に設定することで、その使用者が求める印字画質が達成可能かどうかの判定を行うことができ、それによって印字不良を未然に防ぐことを可能にした。

【0052】本出願に係る第5の発明によれば、トナー 容器中の不純物濃度によってプロセス条件を変えること で、本来なら印字不良となるべき不純物濃度でも印字が 可能となり、それによって印字不良の減少を可能にした。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態1における流れ図である。

【図2】実施の形態1における(a)トナー残量と

(b) 印字画質の変化を表した線図である。

【図3】実施の形態2における流れ図である。

【図4】実施の形態3における流れ図である。

【図5】実施の形態4における流れ図である。

【図6】実施の形態4における印字画質表示方法に関する図である。

14

【図7】実施の形態5における流れ図である。

【図8】従来例 (クリーナ系) を説明する模式図である。

【図9】従来例 (クリーナレス系) を説明する模式図である。

10 【符号の説明】

101…カートリッジ本体 (プロセスカートリッジ)

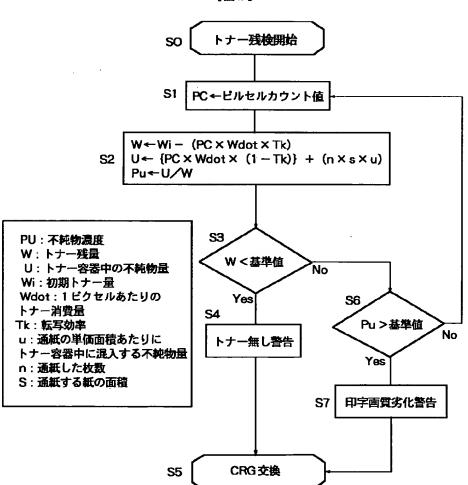
102…感光体ドラム

103…トナー容器

104…残量検知用アンテナ

105…クリーナ

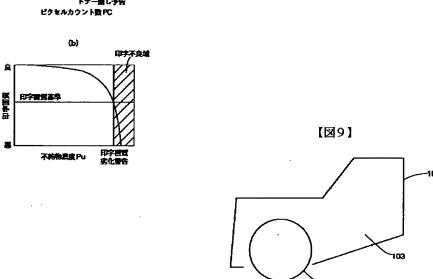
【図1】

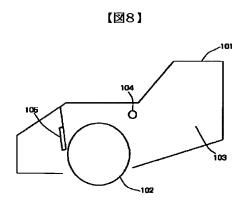


ultra

super fine

(図2) (図6) 印字画質設定値 (変更可能) normal fine super fine ピクセルカウント版で





【図3】

PU: 不純物濃度 W:トナー残量

U:トナー容器中の不純物量

Wi:初期トナー量

Wdot:1 ピクセルあたりの

トナー消費量 Tk:転写効率

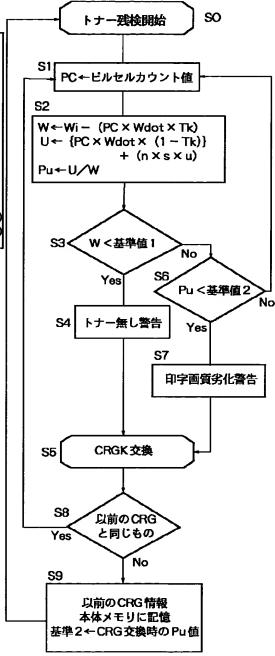
u:通紙の単価面積あたりに

トナー容器中に混入する不純物量

n:通紙した枚数 S:通紙する紙の面積

初期状態

基準2←メーカ推奨値(トナー残量) 基準2←メーカ推奨値(不純物濃度)



【図4】

PU:不純物濃度(初期値は0) W:トナー残量(初期値はWi) U:トナー容器中の不純物量

Wi: 初期トナー量

Wdot:1ピクセルあたりの

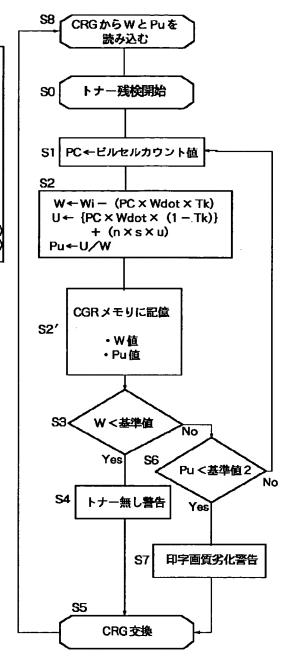
トナー消費量 Tk:転写効率

u:通紙の単価面積あたりに トナー容器中に混入する不純物量

n: 通紙した枚数 S: 通紙する紙の面積

初期状態

基準2←メーカ推奨値(トナー残量) 基準2←メーカ推奨値(不純物濃度)



【図5】

PU : 不純物濃度 W : トナー残量

U:トナー容器中の不純物量

Wi: 初期トナー量

Wdot:1ピクセルあたりの

トナー消費量 Tk:転写効率

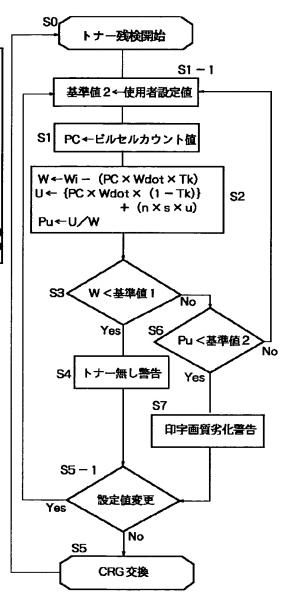
u:通紙の単価面積あたりに

トナー容器中に混入する不純物量

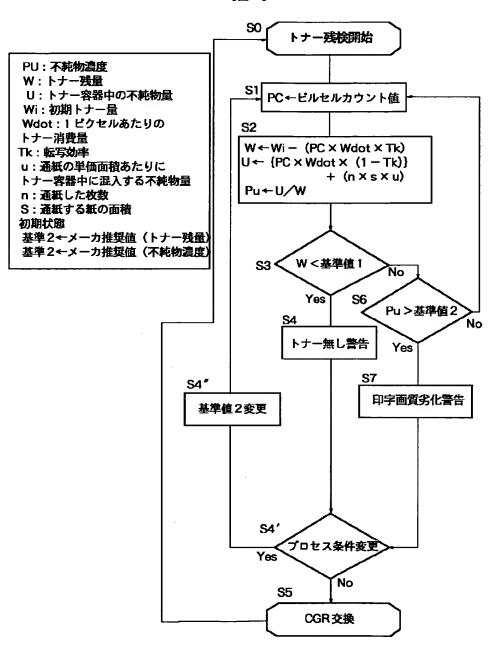
n:通紙した枚数 S:通紙する紙の面積

初期状態

基準2←メーカ推奨値(トナー残量) 基準2←メーカ推奨値(不純物濃度)



【図7】



フロントページの続き

Fターム(参考) 2H027 DA44 DA45 DC10 DD02 DE07

EA02 EA03 EB02 EC06 EC09

EC18 EC20 FA30 FB15 HB02

HB05 HB15 HB17

2H071 BA33 BA34 DA08 DA15

2H077 AA37 AC16 DA15 DA20 DA24

DA32 DA78 GA04